

第164回 日商簿記検定試験 1級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 総合問題（仕訳単位：千円）

1. 売上原価の算定と返金負債の計上

(1) 売上原価の算定

先に売上原価を計算し、原価率を算定する。また、解説の便宜上、売上原価の計算は売上原価勘定で行うこととする。

(借) 売上原価	60,000	(貸) 繰越商品	60,000
(〃) 売上原価	661,000	(〃) 仕入高—商品販売	661,000
(〃) 繰越商品	65,000	(〃) 売上原価	65,000

※1 売上原価：60,000千円(期首：繰越商品) + 661,000千円(当期：仕入高—商品販売) - 65,000千円(期末：繰越商品) = 656,000千円

※2 原価率：656,000千円(※1) ÷ 820,000千円(売上高—商品販売) = 0.8 ∴ 80%

(2) 返金負債の計上

返品見積額を返金負債に計上するとともに、対応する売上原価を返品資産に振り替える。

(借) 売上高—商品販売	10,000	(貸) 返金負債	10,000
(〃) 返品資産	8,000	(〃) 売上原価	8,000

※1 返金負債：100,000千円(3月中の販売金額) × 10%(返品の見込割合) = 10,000千円

※2 返品資産：10,000千円(※1) × 80%(1※2) = 8,000千円

(3) 損益計算書の金額：

① 売上高(商品販売) 820,000千円(前T/B：売上高—商品販売) - 10,000千円(2※1) = **810,000千円**

② 売上原価(商品販売) 656,000千円(1※1) - 8,000千円(2※2) = **648,000千円**

(4) 貸借対照表の金額：返品資産 **8,000千円**(2※2)

2. ソフトウェア開発の収益計上と費用計上

X社は当期中に履行義務を充足し、費用計上と収益計上は完了しているため、Y社とZ社のみの処理を行う。
(単位：千円)

	Y 社			Z 社		
	前期末	当期計上額	当期末	前期末	当期計上額	当期末
発生原価 (期末は各期の累計)	6,000	※1 24,000	30,000	—	12,600	12,600
期末時点見積総原価	36,000			52,500		
進捗度	※2 0.166...	—	0.833...	—	—	0.24
取引価格	45,000			48,000		
発生収益 (期末は各期の累計)	※3 7,500	※4 30,000	37,500	—	11,520	11,520

※1 発生原価当期計上額：30,000千円(当期末までの発生原価累計額) - 6,000千円(前期末までの発生原価累計額) = 24,000千円

※2 進捗度：6,000千円(前期末までの半生原価累計額) ÷ 36,000千円(当初見積総原価) = 0.166...

※3 発生収益累計額：45,000千円(取引価格) × 0.166...(※2) = 7,500千円

※4 発生収益当期計上額：37,500千円(当期末までの発生収益累計) - 7,500千円(前期末までの発生収益累計) = 30,000千円

(1) 収益計上

① Y社

(借) 契 約 負 債	10,500	(貸) 売上高—ソフトウェア開発	30,000
(〃) 契 約 資 産	19,500		

※1 売上高—ソフトウェア開発：30,000 千円 (図解参照：発生収益当期計上額)

※2 契約負債：18,000 千円 (当期末までの入金額) - 7,500 千円 (図解参照：前期末発生収益) = 10,500 千円

※3 契約資産：30,000 千円 (※1) - 10,500 千円 (※2) = 19,500 千円

② Z社

(借) 契 約 負 債	9,000	(貸) 売上高—ソフトウェア開発	11,520
(〃) 契 約 資 産	2,520		

※1 売上高—ソフトウェア開発：11,520 千円 (図解参照：発生収益当期計上額)

※2 契約負債：9,000 千円 (当期末までの入金額)

※3 契約資産：11,520 千円 (※1) - 9,000 千円 (※2) = 2,520 千円

③ 損益計算書の金額：売上高 (ソフトウェア開発)

22,500 千円 (前T/B：売上高—ソフトウェア開発) + 30,000 千円 ((1)①※1) + 11,520 千円 ((1)②※1) = **64,020 千円**

(2) 費用計上

① Y社

(借) 売上原価—ソフトウェア開発	24,000	(貸) 仕 掛 品	24,000
-------------------	--------	-----------	--------

※ 24,000 千円 (図解参照：発生原価当期計上額)

② Z社

a. 売上原価の計上

(借) 売上原価—ソフトウェア開発	12,600	(貸) 仕 掛 品	12,600
-------------------	--------	-----------	--------

※ 12,600 千円 (図解参照：発生原価当期計上額)

b. 受注損失引当金の計上

当期末において、Z社の見積総原価が52,500千円に変更され、取引価格より大きくなるため将来に損失が生じることが明確であるため、引当金の計上を行う。

(単位：千円)

	損失総額	※1 当期計上済損失	翌期以降損失 (見積額)
収 益	48,000	11,520	※2 36,480
原 価	52,500	12,600	※3 39,900
損 失	4,500	1,080	※4 3,420

※1 当期計上済損失：上記図解参照

※2 48,000 千円 (総額) - 11,520 千円 (当期計上済) = 36,480 千円

※3 52,500 千円 (総額) - 12,600 千円 (当期計上済) = 39,900 千円

※4 受注損失引当金：36,480 千円 (※2) - 39,900 千円 (※3) = 3,420 千円

(借) 受注損失引当金繰入額	3,420	(貸) 受注損失引当金	3,420
(〃) 売上原価—ソフトウェア開発	3,420	(〃) 受注損失引当金繰入額	3,420

③ 損益計算書の金額：売上原価 (ソフトウェア開発)

19,200 千円 (前T/B：売上原価—ソフトウェア開発) + 24,000 千円 ((2)①)

+ 12,600 千円 ((2)② a.) + 3,420 千円 ((2)② b.) = **59,220 千円**

④ 貸借対照表の金額：受注損失引当金 **3,420 千円** ((2)② b.)

3. 貸倒引当金の設定

(1) 貸倒引当金繰入額の計上

(借) 貸倒引当金繰入額	1,080	(貸) 貸倒引当金	1,080
--------------	-------	-----------	-------

※1 貸倒引当金を設定する売掛金の残高：135,980千円(前T/B：売掛金)－10,000千円(返金負債：1. (2)※1)
 =125,980千円

※2 貸倒引当金を設定する契約資産の残高：19,500千円(2. (1)①※3)+2,520千円(2. (1)②※3)
 =22,020千円

※3 貸倒引当金繰入額：{125,980千円(※1)+22,020千円(※2)} × 1%(貸倒実績率)
 －400千円(前T/B：貸倒引当金)=1,080千円

(2) 損益計算書の金額：貸倒引当金繰入額 **1,080千円**((1)※3)

4. 有形固定資産

(1) 建物(甲)

(借) 減価償却費	12,500	(貸) 建物減価償却累計額	12,500
-----------	--------	---------------	--------

※1 償却率：1 ÷ 20年(法定耐用年数)=0.05

※2 減価償却費：250,000千円(取得原価) × 0.05=12,500千円

(2) 建物(乙)及び賃貸目的に変更した土地

① 科目の振り替え

当期首より保有目的を賃貸目的に変更した建物(乙)及び土地(一部)について、科目の振り替えを行う。

(借) 投資不動産	326,410	(貸) 建物	180,000
		(〃) 土地	146,410

② 減価償却

建物(乙)については、減価償却を実施する。また、賃貸目的で保有するため損益計算書上、営業外費用に区分する。なお、税法上の定額法では本来、償却率を用いて計算するが、前T/B：建物減価償却累計額勘定の残高と整合性を保つため、償却率を用いずに計算している。

(借) 減価償却費	12,000	(貸) 建物減価償却累計額	12,000
-----------	--------	---------------	--------

※ 180,000千円(取得原価) ÷ 15年(法定耐用年数)=12,000千円

③ 減損処理

(借) 減損損失	85,590	(貸) 減損損失累計額	85,590
----------	--------	-------------	--------

※1 投資不動産の帳簿価額：326,410千円(2)①)－12,000千円(2)②) × 4年(20X1年4月～20X5年3月)
 =278,410千円

※2 割引前将来CF：29,282千円(4年間毎年のCF) × 4年+146,410千円(4年後の土地の処分価額)
 =263,538千円

※3 判定：278,410千円(※1) > 263,538千円(※2) ∴ 減損損失を認識する

※4 使用価値：29,282千円 ÷ 1.1 + 29,282千円 ÷ 1.1² + 29,282千円 ÷ 1.1 + ³29,282千円 ÷ 1.1⁴
 +146,410千円 ÷ 1.1⁴=192,820千円

※5 減損損失：278,410千円(※1)－192,820千円(※4)=85,590千円

(3) 備品

(借) 減価償却費	9,000	(貸) 備品減価償却累計額	9,000
-----------	-------	---------------	-------

※1 償却率：1 ÷ 8年(法定耐用年数) × 200%=0.25

※2 減価償却費：{48,000千円(取得原価)－12,000千円(備品減価償却累計額)} × 0.25=9,000千円

(4) 機械装置

機械装置は「もっぱら」新規事業の研究開発活動に使用する目的で取得しているため、全額費用処理すべきだと思われる。

ただし、他の目的に使用できないかは不明であること、既に資産計上されていること、減価償却方法や「月割計算による」などの指示があることなどを鑑みると、機械装置を資産計上し、減価償却分の 2,800 千円のみを研究開発費として処理する別解も考えられる。

(借) 研究開発費	12,000	(貸) 機械装置	12,000
-----------	--------	----------	--------

※ 12,000 千円(前T/B:機械装置)

(5) 損益計算書の金額:

- ① 減価償却費 (販売費及び一般管理費) 12,500 千円(①) + 9,000 千円(③) = **21,500 千円**
- ② 研究開発費 20,000 千円(前T/B:研究開発費) + 12,000 千円(④) = **32,000 千円**
- ③ 減価償却費 (営業外費用) **12,000 千円(②②)**
- ④ 減損損失 **85,590 千円(②③)**

5. ソフトウェア

(1) 20X2 年 7 月 1 日に取得した分

(借) ソフトウェア償却費	6,720	(貸) ソフトウェア	6,720
---------------	-------	------------	-------

※ 1 当期首の帳簿価額: 33,600 千円(取得原価)

$$\times \{60 \text{ か月 (20X2 年 7 月} \sim 20X7 \text{ 年 6 月)} - 21 \text{ か月 (20X2 年 7 月} \sim 20X4 \text{ 年 3 月)}\} \div 60 \text{ か月} \\ = 21,840 \text{ 千円}$$

※ 2 ソフトウェア償却費: 33,600 千円(取得原価) ÷ 5 年 = 6,720 千円

(2) 20X4 年 10 月 1 日に取得した分

(借) ソフトウェア償却費	1,360	(貸) ソフトウェア	1,360
---------------	-------	------------	-------

※ 1 取得原価: 30,000 千円(前T/B:ソフトウェア) - 21,840 千円(①※1) = 8,160 千円

※ 2 ソフトウェア償却費: 8,160 千円(取得原価) ÷ 3 年 × 6 か月(20X4 年 10 月 ~ 20X5 年 3 月)

$$\div 12 \text{ か月 (20X4 年 10 月} \sim 20X7 \text{ 年 9 月)} = 1,360 \text{ 千円}$$

(3) 損益計算書の金額: ソフトウェア償却費 6,720 千円(①) + 1,360 千円(②) = **8,080 千円**

6. 投資有価証券 (外貨建満期保有目的債券)

(1) 償却原価法 (外貨ベース)

(借) 投資有価証券	2 千ドル	(貸) 有価証券利息	2 千ドル
------------	-------	------------	-------

※ 1 当期首の帳簿価額: 490 千ドル(取得価額) + {500 千ドル(額面金額) - 490 千ドル(取得価額)} ÷ 5 年

$$\times 3 \text{ 年 (20X1 年 4 月} \sim 20X4 \text{ 年 3 月)} = 496 \text{ 千ドル}$$

※ 2 有価証券利息: {500 千ドル(額面金額) - 490 千ドル(取得価額)} ÷ 5 年 = 2 千ドル

(2) 償却原価法 (単位: 千円)

(借) 投資有価証券	250	(貸) 有価証券利息	250
------------	-----	------------	-----

※ 1 当期首の帳簿価額: 496 千ドル(①※1) × 120 円(前期末の為替相場) = 59,520 千円

※ 2 有価証券利息: 2 千ドル(①※2) × 125 千円(期中平均相場) = 250 千円

(3) 換算替え

(借) 投資有価証券	4,970	(貸) 為替差損益	4,970
------------	-------	-----------	-------

※1 当期末の帳簿価額(ドル) : 496千ドル $(1) \times 1$ + 2千ドル $(1) \times 2$ = 498千ドル

※2 当期末の帳簿価額(円) : 59,520千円 $(2) \times 1$ + 250千円 $(2) \times 2$ = 59,770千円

※3 為替差益 : 498千ドル $(\times 1) \times 130$ 千円(当期末の為替相場) - 59,770千円 $(\times 2)$ = 4,970千円

(4) 損益計算書の金額 :

① 有価証券利息 1,250千円(前T/B : 有価証券利息) + 250千円 (2) = **1,500千円**

② 為替差益 800千円(前T/B : 為替差損益) + 4,970千円 (3) = **5,770千円**

7. 退職給付

(1) 一時金支払額と年金掛金の修正仕訳

(借) 退職給付引当金	7,000	(貸) 退職給付費用	7,000
-------------	-------	------------	-------

(2) 当期の退職給付費用の計上

(借) 退職給付費用	7,800	(貸) 退職給付引当金	7,800
------------	-------	-------------	-------

※ 図解(単位:千円)

	退職給付債務	年金資産	未認識 数理計算上の差異	退職給付引当金
期首残高	150,000	△ 90,000	△ 6,000	54,000
退職給付費用				
勤務費用	5,000			5,000
利息費用	4,500			4,500
期待運用収益		△ 2,700		△ 2,700
数理計算上の差異			1,000	1,000
当期計上額	9,500	△ 2,700	1,000	7,800
退職一時金及び年金掛金		△ 7,000	—	△ 7,000
期末残高		59,800	△ 5,000	54,800

(3) 損益計算書の金額 : 退職給付費用 **7,800千円**(図解参照)

(4) 貸借対照表の金額 : 退職給付引当金 **54,800千円**(図解参照)

8. 法人税等の計上と税効果会計

(1) 法人税等の計上

(借) 法人税、住民税及び事業税	28,000	(貸) 仮払法人税等	10,000
		(〃) 未払法人税等	18,000

(2) 税効果会計

(借) 繰延税金資産	27,087	(貸) 法人税等調整額	27,087
------------	--------	-------------	--------

※ 図解 (単位：千円)

	将来減算一時差異	法人税等調整額	将来減算一時差異
	当期首残高		当期末残高
貸倒引当金	1,000	480	1,480
受注損失引当金	—	3,420	3,420
減損損失累計額	—	85,590	85,590
退職給付引当金	54,000	800	54,800
合計	55,000	90,290	145,290
税率	30%		
繰延税金資産	16,500	27,087	43,587

(3) 損益計算書の金額：

- ① 法人税、住民税及び事業税 **28,000** 千円(①)
- ② 法人税等調整額 **△ 27,087** 千円(②)

9. 配当金の修正及び配当に伴う準備金の計上

(1) 配当金の修正及び配当に伴う準備金の計上

(借) 繰越利益剰余金	8,800	(貸) 支払配当金	8,000
		(〃) 利益準備金	800

※ 1 要積立額：500,000 千円(前T/B：資本金) × 1/4

$$- \{100,000 \text{ 千円(前T/B：資本準備金)} + 20,000 \text{ 千円(前T/B：利益準備金)}\} = 5,000 \text{ 千円}$$

※ 2 配当金の 1/10：8,000 千円(前T/B：支払配当金) × 1/10 = 800 千円

※ 3 利益準備金：5,000 千円 > 800 千円 ∴ 800 千円

(2) 貸借対照表の金額：

- ① 利益準備金 20,000 千円(前T/B：利益準備金) + 800 千円(①) = **20,800 千円**
- ② 繰越利益剰余金 69,700 千円(前T/B：繰越利益剰余金) - 8,800 千円(①) + 7,807 千円(当期純利益) = **68,707 千円**

10. 貸借対照表 (参考)

貸借対照表		20X5年3月31日 現在		(単位: 千円)
現金預金	129,940	買掛金	83,000	
売掛金	135,980	返金負債	10,000	
契約資産	22,020	未払法人税等	18,000	
貸倒引当金	△ 1,480	受注損失引当金	3,420	
商品	65,000	長期借入金	400,000	
返品資産	8,000	退職給付引当金	54,800	
有価証券	64,740	資本金	500,000	
建物	250,000	資本準備金	100,000	
備品	48,000	利益準備金	20,800	
土地	289,200	繰越利益剰余金	68,707	
減価償却累計額	△ 83,500			
ソフトウェア	21,920			
関係会社株式	72,500			
繰延税金資産	43,587			
投資不動産	326,410			
減価償却累計額	△ 48,000			
減損損失累計額	△ 85,590			
	<u>1,258,727</u>			<u>1,258,727</u>